

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 心から
日付	平成17年11月7日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	病院での相談援助業務歴31年、家族介護歴13年 特別養護老人ホームでの認知症高齢者介護歴5年
自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)	
評価項目の内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)	
事業所のコメントを見る (評価結果に対する事業所の改善状況についてコメントがあります！)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
・交通機関の利用に便利な住宅地に位置しており、学校、支所、公園なども近くにあり ます。
・職員は、地域社会に溶け込んだ生活を大切に考えると共に、「何よりも大切なことは、 入居者の精神面、『心』である」とする理念のもと一致団結して、心と身体の両面からア プローチする総合的なハビリによるケアに取り組んでいます。
・高齢者の「低栄養予防」に取り組み、食事メニューの工夫・改善に努力をしています。
・専門職「介護食士」や「作業療法士」など有資格者が、常にさりげなく入居者と共に過 ごしています。
・認知症の進行予防、改善のため、学習療法を取り入れています。入居者は、音楽・絵 画・文章・音読・工作・計算・漢字など好きなことを選び、楽しみながら取り組んでいま す。
・玄関も自由に出入りができ、金魚の水槽を見て楽しんだり、隣接施設の入居者との交 流も自由に行えるような取り組みがなされています。
特に改善の余地があると思われる点
・職員体制について、過去1年間に多数の退職者や新規事業所の立上げによる法人 内異動のあったことを調査時に確認いたしました。職員と入居者の馴染みの人間関係 づくりは、グループホームにおける支援の中核となります。職員は、入居者との新たな 人間関係づくりに熱心に取り組まれています。一層の努力を期待します。
・玄関に誰もが利用できるように、手指消毒用の容器が設置されていますが、洗面所 やトイレの手拭もその都度、清潔を保てる何らかの方法が必要ではないかと思いま す。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か。		
	<p>・入居者を認知症としてより、まず一人の人として接するよう心がけています。</p> <p>・自分でできることを大切に、できないことは、その原因を探り、原因となっていることを 取り除く努力をしています。</p> <p>・その人の持っている「心」を大切にされたケアをめざしています。そのためには、入居者 と信頼関係を築くことが最も基本的なことと考えています。</p>		

ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	心身機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシーの保護のために取り組んでいるものは何か。		
	<p>・入居者のこれまでの生活歴を聞くことにより、趣味・特技・楽しみごとを知り、その経験 や「持てる力」をホームの中で活かすことできるよう取り組んでいます。しかし、入居者 一人ひとりにとってのタイミングがあり、その機会をとらえることが大切であると思 っています。</p> <p>・入居者の部屋に入る時は、必ず声かけをしたり、ノックをして許可を得ています。</p> <p>・個人ごとの記録物は、扉のある場所に収納しています。</p> <p>・おむつカバーなどは、直接人の目に触れない所に干しています。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり		
4	建物の外周リや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。		
	<p>・職員が落ちついてケアにあたり、入居者と馴染みの関係を作ることが大切と考えていま す。</p> <p>・入居者それぞれの得意なことや、できることを大切にされたケアに取り組んでいます。</p> <p>・希望の多い外出機会づくりとして、毎日、夕方に希望者と共に買物に出かけていま す。</p> <p>・併設のアシストリビング(高齢者・障害者向けケア付集合住宅)やデイサービスとの交 流があり、仲の良い友人と自由に交流ができるよう取り組んでいます。</p>		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>・今以上に、入居者の「心」に添ったケアをめざしています。</p> <p>・職員全体が一致して質の高いケアの提供ができるよう、理念の認識の共有化に努め ています。</p> <p>・今後、月1回程度の勉強会を実施し、レベルアップをはかることを計画しています。</p> <p>・事故に至らないように、問題発生時には職員間で話し合い、対策も検討されていま す。議事録もとられています。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		